

# 12月田原市議会傍聴記

地方政治クリエイト **伊藤 秀昭**

来年2月1日が投票日と決まった田原市議会議員にとつて、12月議会は任期最後の議会。2日間で8人が一般質問に立ち、自らの議会活動の締めくくりとした。

◎来年度予算編成  
牧野京史氏は来年度予算編成について、特に来年4月末の任期満了に伴う市長選に出馬しないことを明らかにしている市長に対し、「次期市長が政策的経費を肉づけるような骨格予算を組むべきではないか」と質問した。  
市長は、「行政は

子どもの健全育成を第一義に、3歳以上の児童数50人未満の小規模園の解消に取り組むよう要請した。

## ESD

田原市において、地域社会を担う人材育成に向けて、持続可能な開発のための教育(ES

◎観光まちづくり  
太田由紀夫氏は観光基本計画が改定作業中であることから、今後の渥美半島観光の再生について質問した。

## 健康都市

長神隆士氏は、攻めを取り組みによって健康都市を目指し、医療費削減にもつながる健康づくりについて問題提起した。  
田原市では肥満や

# 寒気吹き飛ばす任期最後の一般質問

D)について質問したのは辻史子氏(公明)。

辻氏はユネスコの理念に沿った教育を行うユネスコスクールが全国で拡大していることから、田原市の小中学校も積極的に参加していくべきではないかと提案し、地域ESD活動

循環器疾患が多い傾向にあることから、長神氏は生活習慣病の改善の面からも、健康マイレージ事業や歯科口腔ケア、食生活改善事業など、地域コミュニティや食生活改善推進員などと連携した身近な健康づくりを強調した。

スタルポルトの観光客の利便性向上に向けて改善すべき点が多いことなどを指摘。東西に長い渥美半島の観光再生のためには、様々な取り組みや企画を点ではなく、線や面としてまとめ役割は行政主導でなければならぬ

中で、ひきこもりは1人であったことを明かし、訪問型アウトリーチ家庭教育支援チームを中心に、他の機関とも連携を強めて取り組んでいくとした。

平松氏は不登校や引きこもりが続くと大きな社会的損失を招くことから、早

期発見・早期取り組みを要請した。

## 地方創生

大竹正章氏は地方創生についての考え方を質問した。  
大竹氏は視察した島根県海士町の大胆な子育てや教育支援策、産業創出の取り組みを紹介しながら、  
答弁では、県の調査においても市の調査においても、特定有害物質が環境基準値を超える地点はなかったことを明らかにした。  
杉浦氏は産廃業者から運ばれている堆肥そのものを調査する必要があり、渥美半島の農業は田原市の根幹産業であり、また日本の中心的農業生産地であり、消費者に安全な農産物を提供する責務があると強調し、徹底的な調査を要求した。



◎農産物の安全  
杉浦文平氏(無所属)